

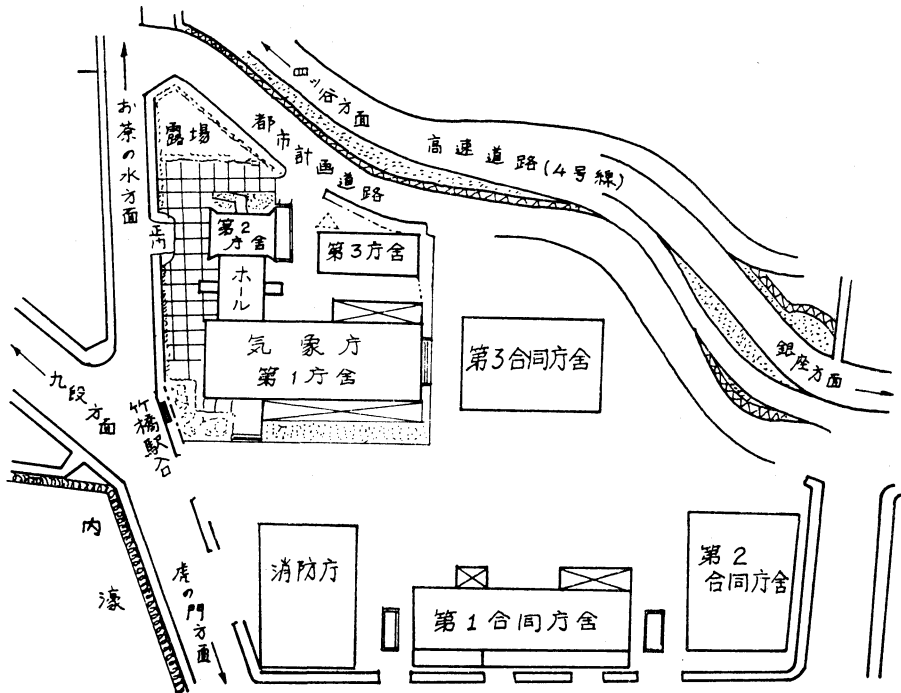
日本気象学会 昭和53年春季大会

会期：昭和53年5月23日（火），24日（水），25日（木）
会場：気象庁（東京都千代田区大手町1-3-4）

目次

大会行事予定表	235
総会次第	235
研究発表内容一覧	236
研究発表題目	237~242

会場案内図



(道順) 地下鉄東西線竹橋下車がもっとも便利です。

* 本大会の「大会参加申込書」用紙は「講演予稿集」に綴じ込まれていますので、予め記入の上、忘れずに当日会場受付までご持参ください（当日、会場受付には若干部しか用意してありません）。

大会行事予定表

1. 会場：気象庁（東京都千代田区大手町 1-3-4）
 第1会場：講堂
 第2会場：第1会議室
 第3会場：気象大学校研修教室（気象庁内）
2. 会期：5月23日（火）、24日（水）、25日（木）
3. 行事

行事	
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月23日（火）09：00～12：30
〃	〃 13：30～17：30
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月24日（水）09：00～12：00
シンポジウム（第1会場）	〃 13：00～15：00
総会（〃）	〃 15：00～
学会賞藤原賞記念講演（〃）	〃 ～17：00
懇親会	〃 17：30～
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月25日（木）09：00～12：30
〃	〃 13：30～17：00

大会委員長 関原 疆

総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 昭和52年度事業経過報告
7. 〃 会計決算報告
8. 〃 会計監査報告
9. 昭和53年度予算案・事業計画案の審議
10. 会費値上げのための定款の一部改正について
11. その他
12. 気象学会賞受賞記念講演
13. 藤原賞受賞記念講演

昭和53年春季大会

() : 講演番号, — — : 座長

	第 1 会 場		第 2 会 場		第 3 会 場	
5 月 23日 (火)	09:00~ 12:30	境界層 (101~111) —水間 満郎—	09:00~ 12:30	気候 (201~213) —内田 英治—	09:00~ 12:30	放射 (301~310) —嘉納 宗靖—
	13:30~ 17:00	境界層 (112~124) —花房 龍男—	13:30~ 17:30	大循環・力学 (214~229) —相原 正彦—	13:30~ 17:00	放射・エーロゾル (311~322) —会田 勝—
5 月 24日 (水)	09:00~ 12:00	境界層 (125~135) —浅井 冨雄—	09:00~ 12:00	熱帯 (230~236) —金光 正郎—	09:00~ 12:00	エーロゾル・大気化学 (323~333) —三崎 方郎—
	13:00~ 15:00 15:00~ 17:00	シンポジウム 総会・記念講演				
5 月 25日 (木)	09:00~ 12:30	境界層 (136~145) —木村 竜治—	09:00~ 12:30	降水 (237~248) —榊原 均—	09:00~ 12:30	応用気象・教育 (334~341) —高橋浩一郎— 測器 (342~345) —内藤 恵吉—
	13:30~ 17:00	総観気象 (146~155) —植村 八郎—	13:30~ 17:00	積雲・層状雲 (249~258) —後町 幸雄—	13:30~ 17:00	雲物理・大気電気 (346~355) —遠藤 辰雄—

シンポジウム「数値実験に基づく大気大循環」

1. 日時 大会第2日 (24日)
2. 会場 第1会場
3. 座長 菊池幸雄 (気研・応用)
4. 話題提供者

金光正郎 (気大) : 数値モデルからみた大気大循環とその季節変動
 木田秀次 (気研・予報) : 数値モデルからみた気候変動

講演発表者へのお願い

1. スライドのマウントに番号をつけること
2. スライドの上下を揃え、分かるようにすること
3. スライドの標準枚数は6~8枚です
4. 持ち時間 (15分~20分) を超過したときは中止していただくことがあります。

研究発表題目

大会第1日（5月23日）9時00分～12時30分

- 第1会場 境界層** 座長 水間満郎
101. 藤田敏夫(気研・予報)：2高度バルク法による乱流輸送量の測定(補遺)
102. 横山長之・山本晋・蒲生稔(公資研)：接地安定層の構造モデル
103. 甲斐憲次(筑波大)：接地境界層における乱流スペクトルの3成分解析
104. 大西隆・伊藤昭三(大阪府大・工)・文字信貴(京大・防災研)：大気境界層下部の鉛直方向の相関について
105. 内藤玄一(防災センター)：鉛直方向の空間相関係数とコヒーレンス
106. 塚本修・光田寧(京大・防災研)：強風時における風速変動の空間相関について
107. 安達隆史(気象協会・研)・千葉修(高知大・理)：微風時の乱流変動量の特性(微風構造の研究Ⅷ)
108. 水野建樹・林正康(公資研)：鉛直風向変動と風速、放射収支量の関係
109. 井上君夫・内嶋善兵衛(農技研・気象科)：水稻群落内の乱流特性(I)
110. 米谷俊彦(岡山大・農業生物研)：植物群落上の乱流特性について(VI)
111. 光田寧・林泰一(京大・防災研)：風速の度数分布に対する Weibull 分布の適用
- 第2会場 気候** 座長 内田英治
201. 渡辺明(気象庁・電計)：気温の Spectrum Analysis にみる関東地域の局地効果
202. 中西朗(新潟市・桃山小)：5,500m 上空の気温と瓢湖の白鳥最大羽数
203. 朝倉正・池田誠也・平沼洋司(気象庁・長期)：大気環流の長期傾向と異常天候
204. 金光正郎(気象大)：干ばつ年(1972年)と平年(1967年)の夏季の熱帯対流圏上層場の比較
205. 星合誠(愛知学院大)：気温の全球的パターンの変動(第2報)
206. 廣瀬元孝(気研・予報)：気温分布の長周期変動について
207. 関原彊・池田弘・菊池直次郎・田村竹男(高層台)：成層圏気温の長期変動について
208. 荒井康(気象庁・長期)：地上地衡風の長期変動
209. 米谷恒春(防災センター)：東京における量から見た降水パターンの変化
210. 中村力・孫野長治(北大・理)：昭和52年北海道の冬の異常低温について—1次元モデルによる考察—
211. 土屋巖・松戸修(公害研)：リモートセンシングによる鳥海山小氷河群の探査—多年性雪氷の熱的数値解析—
212. 真鍋大覚(九州大)・志賀正信(長崎海洋台)・佐藤洋子(九州大)：古木老樹および寺院神殿に残る風向の永年変化
213. 真鍋大覚(九州大)・志賀正信(長崎海洋台)・佐藤洋子(九州大)：地中海象と地震
- 第3会場 放射** 座長 嘉納宗靖
301. 中澤高清・山内恭・田中正之(東北大・理)：Oxygen A-band の吸収特性
302. 青木忠生(東北大・理)：Semi-direct random band model の精度について
303. 山内恭・田中正之(東北大・理)：水蒸気近赤外帯の吸収特性(I)
304. 田中正之(東北大・理)・太田幸雄(北大・工)：放射霧の生成・消滅過程における放射および乱流の役割
305. 勝守真(京大・理)：地球古大気の光化学-放射平衡
306. 一木明紀(高層台)：下向き放射量、放射収支量などの季節変動について
307. 川口貞男(極地研)：南極大気の放射冷却
308. 嘉納宗靖・鈴木正・宮内厚厚(気研・高物)・三寺光雄(広島大・理)：海面温度の遠隔測定について
309. 会田勝・谷治正孝(横浜国大・教育)：下向大気放射量の東京横断観測
310. 会田勝・後藤清志(横浜国大・教育)：都市のアルベド(I)モデル実験とシミュレーション

大会第1日(5月23日) 13時30分~17時30分

第1会場 境界層

座長 花房 龍 男

112. 伊藤芳樹・光田 寧(京大・防災研): Sodar による大気境界層の遠隔測定
113. 林 正康(公資研)・花房龍男(気研): 音波レーダによる大気境界層の観測(その3)
114. 林 正康(公資研): 接地逆転層の生成の類型化
115. 植田洋匡・光本茂記(公資研)・鈴木弥幸・穂田 敬・鈴木剛彦(高層台): 接地逆転層, 夜間低層ジェットの生成, 発達, 消滅過程の観測—カイツーンによる風速, 温度, 湿度の鉛直分布連続測定
116. 花房龍男・藤谷徳之助・大塚 伸(気研・物理): 接地逆転層消滅時における気象要素の変化について
117. 伴野 登(気研・気象衛星): 気象観測鉄塔で観測した風速について
118. 鈴木弥幸・穂田 敬・鈴木剛彦(高層台)・気象研境界層グループ: 観測鉄塔と係留気球による大気境界層の比較観測(II)
119. 水間満郎(京大・原子炉): パイポール観測と気象観測塔での風の観測との比較
120. 山本 晋・横山長之・蒲生 稔(公資研): タワーによる大気境界層の観測(その2)—特に安定接地気層の場合—
121. 花房龍男・藤谷徳之助・大塚 伸(気研・物理): 顕熱乱流輸送量の高度変化について(2)
122. 林 正康(公資研)・鳥飼裕幸(東海大): テトルーンによる大気乱流観測
123. 山本 晋・蒲生 稔・横山長之(公資研): 飛行機による都市域の地表面温度および気温分布の観測
124. 蒲生 稔・山本 晋・横山長之・吉門 洋(公資研): 海陸2境界面上に発達する内部境界層の飛行機観測(その6)

第2会場 大循環・力学

座長 相原 正 彦

214. 大井正道・杉谷康雄(大阪教育大): 帯状流地形性擾乱の孤独波生成について(第7報)—2層モデル—Frictional Case
215. 大井正道・鈴木一郎(大阪教育大): 帯状流地形性擾乱の孤独波生成について(第8報)—Blocking現象の理論的考察—
216. 大井正道・鈴木一郎(大阪教育大): 帯状流地形性擾乱の孤独波生成について(第9報)—台湾坊主

発生機構の理論的考察—

217. 神沢 博(京大・理): 突然昇温時における平均流およびプラネタリー波の振舞について
218. 伊藤久徳(和歌山大・教育): Lateral shear を持つ帯状流のもとでの planetary 波とそれによる帯状流加速について
219. 野田 彰(仙台管区): 遠心力・コリオリの力と電磁気力(ローレンツ力)の類似性の起源
220. 野田 彰(仙台管区): Newton 力学および波動伝播における「固有時間」
221. 岸保勲三郎(東大・理): 物理的モデルによる予報と統計予報に関するおぼえがき
222. 住 明正(気象庁・電計): 1層スペクトルモデルについて
223. 森山 茂(日大・生産工)・岩嶋樹也(京大・理)・山元龍三郎(京大・理): 火星の大気大循環スペクトルモデル(IV)
224. 松田佳久(東大・理): 金星大気の循環—特に4日循環について
225. 朝倉 正・田中康夫(気象庁・長期): 北半球における熱輸送量の動気候学的解析(I)
226. 山元龍三郎(京大・理): オメガ気候学(第2報)
227. 時岡達志(気研・予報): 大気および海洋の境界層の予報について(I)
228. 時岡達志(気研・予報): 大気および海洋の境界層の予報について(II)
229. 吉住禎夫(気研・予報): 傾圧混合層内の風速分布および運動量輸送の数値実験(II)

第3会場 放射・エーロゾル 座長 会 田 勝

311. 福山 薫(CNET, France): IS レーダによる中層大気の観測(I)
312. 佐藤隆夫(長崎大): 第n次散乱光における位相関数(II)
313. 佐藤隆夫(長崎大): 日照権侵害率の算定法(終)
314. 村井潔三・小林正治・山内豊太郎・後藤良三(気研・高物): 飛行機による日射の波長別測定
315. 村井潔三・小林正治・山内豊太郎・後藤良三(気研・高物): 地上における日射の分光測定—主として天空散乱日射
316. 荒生公雄(長崎大・教育): 混濁大気における太陽周辺光(II)

317. 小林隆久(気研・応用)・中村和信(衛星センター): Ångström の混濁係数の推定について
318. 小林隆久(気研・応用): 気温と全天日射量の日変化について
319. 田中正之・高村民雄・中島映至(東北大・理): 散乱微分断面積の測定によるエアロゾルの粒径分布と複素屈折率の推定(I)
320. 田中正之・高村民雄・中島映至(東北大・理): 散乱微分断面積の測定によるエアロゾルの粒径分布と複素屈折率の推定(II)
321. 武田喬男・長屋勝博(名大・水圏研): ライダーによる上部対流圏の微粒子の観測(II)
322. 北川信一郎・高橋忠司(埼玉大)・池上三和子・金沢五寿雄・三崎方郎(気研)・関川公成・角田智良・増田純夫・望月 定(東理大・理)・首藤克彦(東理大・理工)・中谷 茂(電総研): 大都市およびその周辺地域における微小浮遊粒子の分布と変動の研究

大会第2日(5月24日) 9時00分~12時00分

- 第1会場 境界層** 座長 浅井 冨雄
125. 竹内衛夫(気研・予報): 定常非断熱境界層における風の分布
126. 後藤常男(緯度観測所): 位置天文観測と境界層の構造
127. 安達隆史(気象協会・研): 海岸における温度風の鉛直分布
128. 近藤純正(東北大・理): 亜熱帯海上混合層内での風速日変化
129. 浅井冨雄・藤部文昭(東大・海洋研): 関東地方における局地風の研究(1)一下層大気の日変化
130. 角田道生・林 隆(原研): 2地点で観測した海風時逆転(II)
131. 谷治正孝(横浜国大): 秋の移動性高気圧下における相模平野の海陸風循環
132. 吉門 洋(公資研): 海陸風の発生と気圧配置の関係
133. 小森 遵・大西外史(防衛大): 関東地方の局地的前線について
134. 菊池幸雄(気研・応用)・荒川正一・白崎航一(気大)・長野美文(気象庁・電計)・木村富士男(気研・応用): 山岳を考慮した海陸風の数值シミュレーション(南関東地域)
135. 光本茂記(公害研)・浅井冨雄(東大・海洋研): 海陸風循環に及ぼす斜面の影響一海陸風と斜面風の相互作用について一
- 第2会場 熱帯** 座長 金光 正 郎
230. 安成哲三(京大・東南ア研): 南西モンスーン期における雲量変動(I)
231. 安成哲三(京大・東南ア研): 南西モンスーン期における雲量変動(II)
232. 和田美鈴(気研・台風): Arakawa-Schubert のパラメタリゼーションを用いた台風の数值実験
233. 新田 勅(東大・理): GATE 領域の大規模変動に伴う積雲の応答特性
234. 浜田忠昭・田崎允一・斉藤 優・野田忠彦(衛星センター): 静止気象衛星画像から有効な雲移動量を算出するための基礎調査(その2)一パターンマッチングに関する自動評価一
235. 高山陽三・高島 勉・鯉沼正一(気研・衛星): 衛星画像による雲ベクトル算出法の試み
236. 田中 実: MONEX 地域における冬の季節風とそれに伴う降水量の分布
- 第3会場 エアロゾル・大気化学** 座長 三崎 方 郎
323. 三崎方郎・伊藤朋之・池上三和子(気研): 小笠原父島におけるエアロゾル濃度の島内分布
324. 高橋庸哉・孫野長治(北大・理): 有珠火山灰の札幌における粒径分布
325. 孫野長治・高橋庸哉(北大・理): 有珠火山灰の Rainout
326. 遠藤辰雄・村上正隆(北大・環): 海上へ流出したエアロゾルの消滅過程に及ぼす海塩粒子の効果について一数值計算一
327. 北川信一郎・島村和男・横田光男(埼玉大・工): 夏期浦和市における小イオンとエアロゾルの相互関係
328. 大気物理グループ(名大・水圏研): 都市大気中の雲核の数濃度, 物質構成および発生源について
329. 井沢保男・小野 晃(名大・水圏研): 個々の Nitrate 粒子の同定法の確立とその適用例について
330. 望月 定・関川公成・関川俊男(東理大・理)・石

- 川晴治(名大・空電研)：日本列島南方洋上の自然放射性エアロゾル(序報)
331. 鈴木 款・杉村行勇(気研)・三宅泰雄(地球化学研究協会)：降水およびエアロゾル中のセレン含量
332. 大喜多敏一・太田幸雄(北大・工)・原 宏(公衆衛生院)：大気中のガス・エアロゾル成分の変動及び雲水のpHについて
333. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・猿橋勝子・金沢照子(気研)：地球上におけるトリチウム降下の地理的分布

大会第3日(5月25日) 9時00分～12時30分

第1会場 境界層

座長 木村 竜 治

136. 植田洋匡(公害研)・水科篤郎・萩野文丸・小森悟(京大・工)：温度成層流中の乱流拡散係数に及ぼす浮力効果
137. 吉門 洋・横山長之・北林興二(公資研)：下面から加熱される安定成層流の水路実験(1)
138. 加藤真規子(お茶大)：乱流拡散に及ぼす温度成層の影響(1)
139. 北林興二(公資研)：よどみ流の風洞実験(Thin Barrierの場合)
140. 北林興二・横山長之(公資研)：対流境界層の風洞実験(第2報)
141. 赤井清康(関東地区)：室内空気の大気オキシダントによる汚染濃度の変化について
142. 木村富士男・森口 実(気研・応用)：拡散卓越時のNOの酸化速度について(拡散実験と理論的考察)
143. 岡本真一・岡西祥太郎・塩沢清茂(早大・理工)：風下距離による補正を考慮した排ガス上昇高さ計算式の比較と評価
144. 広尾 純・塩沢清茂(早大・理工)：大気汚染シミュレーションのための上層風の推定
145. 木村富士男(気研・応用)：南関東における拡散場の推定精度とその濃度に及ぼす感度

第2会場 降水

座長 榊原 均

237. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報)：10分間雨量時系列データのスペクトル解析法
238. 古川武彦(気研・台風)：Fourier変換を利用した山岳地形の解析
239. 二宮洗三・秋山孝子(気研・予報)：レーダ・雨量計観測網に基づく豪雨の雨量分布の客観解析
240. 古川武彦(気研・台風)：デジタル化されたレーダ資料による台風に伴う降雨帯の解析(2)
241. 当舍万寿夫・奥田 稷(気研・台風)：台風7617の

降雨量のスペクトル解析について

242. 柳沢善次・神林慶子(気研・台風)：台風降雨帯に伴う豪雨の解析(1)
243. 伊藤公子・浅井富雄(東大・海洋研)：帯状降雨帯の解析—関東地方1976年9月9日の場合—(その2)
244. 上坂慶正・櫃間道夫(気象庁・予報)：降雨帯の消長予測への地上風・気温データの利用に関する事例研究
245. 櫃間道夫(気象庁・予報)：本州中部を南下する降雨帯が足踏み後ジャンプする現象についての一考察
246. 秋山孝子・広瀬元孝・二宮洗三(気研・予報)：新潟県の冬期降水分布
247. 和田 誠(極地研)：日本海の対流性雲からの降電の観測
248. 植村八郎(気象庁・予報)：日本海における渦状雲形成の解析

第3会場 応用気象・教育 座長 高橋 浩一郎

334. 丸山美智子(関東地区)：大型プロッキング天気図の電磁波ビーム地震雲と地震・火山活動および地震前褶曲磁気運動S核予報解析
335. 丸山美智子(関東地区)：中心気圧等圧時の地震(震度1～5)予知方法について—中小型プロッキング天気図の中震・弱震
336. 谷口 宏(地震予知ク)：地震発生前の異常雲
337. 山本 栄・竹内寿一郎(慶大・工)・靱山政子(医学地理研)：脳血管疾患の死亡時系列解析
338. 靱山政子(医学地理研)・片山 功仁慧(捜真女学校)・山本 栄(慶大・工)・佐藤都喜子(東大・医)：脳硬塞死亡率の季節性
339. 高橋浩一郎(気大)：蒸発散量の推定式
340. 鳥貫 陸・新牧賢三郎(東京学芸大)：日本放送協会(NHK)学校放送番組における気象教育の内

容分析

341. 山田幹夫(香川県・高松高校): 気象衛星雲写真を利用した気象学習のあり方について(Ⅱ) 目と手で確かめる地学学習として

第3会場 測器 座長 内藤 恵吉

342. 清水 浩・笹野泰弘・竹内延夫・松井一郎・松戸修・奥田典夫(公害研): 車載型コンピュータ制御レーザレーダの開発

343. 笹野泰弘・清水 浩・竹内延夫・奥田典夫(公害研): レーザレーダによる大気境界層観測
344. 吉留英二・青柳二郎(気研・衛星): オメガ高層風観測装置の改良(Ⅳ)
345. 高山陽三(気研・衛星)・村山信彦(衛星センター)・鯉沼正一(気研・衛星)・小平信彦(衛星センター): 3軸安定気象衛星搭載放射計(第2報)

大会第3日(5月25日) 13時30分~17時00分

第1会場 総観気象 座長 植村 八郎

146. 大野久雄・増田卓嗣・矢野良明(東京航空地台): CX-Jet Liner の観測した Low Level Wind Shear の解析
147. 藤井盛澄(大阪電通大): 1965年12月, 米国域に侵入した亜熱帯ジェット流の解析
148. 尾崎康一(気象庁・予報): 北半球 500 mb 高度予想図利用における J- ζ 法
149. 山口勝輔・吉田作松(気象協会・研): MOS 手法による流域雨量の予測(その3: 説明因子の数の検討および季節別予測式の作成)
150. 上坂慶正・市沢成介(気象庁・予報): 台風7709号と上層寒冷低の相互運動
151. 石島 英(琉大): 沖永良部台風の中心付近の構造
152. 大河内芳雄(気象庁・電計): 移動性多重格子系(MNG) のテストについて(1)
153. 大河内芳雄(気象庁・電計): MNG を用いた台7619, 台7709の予報について(2)
154. 小沢 正・内山良子(気研・予報): 日降雨量の統計的, 総観的解析(Ⅰ)
155. 久保田 効(気象庁・電計): GMS 雲量による湿度の客観解析の改良

第2会場 積雲・層状雲 座長 後町 幸雄

249. 武田 喬男・高瀬邦夫・大谷 健・村林 成(名大・水圏研): 尾鷲における降水雲の RHI レーダ観測(Ⅰ)一局的に形成維持された対流性降水雲一
250. 武田 喬男・高瀬邦夫・大谷 健・村林 成(名大・水圏研): 尾鷲における降水雲の RHI レーダ観測(2)一中層と下層の雲の複合したシステムについて
251. 降雪研究グループ(名大・水圏研, 気研・物理):

低気圧通過時および季節風卓越時の能登半島での降雪の観測(2)

252. 武田 喬男・村林 成(名大・水圏研): 垂直レーダによる非降水エコーの観測
253. 早川誠而・坂上 務・元田雄四郎(九大・農): 降雨機構の違いがレーダ反射強度に及ぼす影響について
254. 藤吉康志(名大・水圏研): 日の出日没前後における層状雲のレーダエコー構造の変化
255. 後町幸雄(京大・防災研): 層状雲による山岳降雨のモデル
256. 吉崎正憲(東大・海洋研): 雲底の高い積雲の数値実験(4)
257. 米谷恒春(防災センター): 雲底下層での補償流の影響を考慮した雷雨予報のための不安定指数
258. 柳沢嘉親・孫野長治(北大・理): 冬期季節風下の北海道付近の雲ードライアイス霧による室内実験一

第3会場 雲物理・大気電気 座長 遠藤 辰雄

346. 上田 博・菊地勝弘(北大・理): 多結晶雪結晶の成長に関する核化の条件
347. 上田 博・菊地勝弘(北大・理): 砲弾集合雪結晶の成長について
348. 権田武彦・前沢靖男・山崎利夫(東理大・理工): 低温槽内で成長する ice droxtal の形態変化
349. 梶川正弘(秋田大・教育)・菅野茂雄(東京・松江小): 氷表面に衝突する過冷却微水滴のはね返りについて(2)
350. 佐粧純男・松尾敬世(気研・物理): 雲粒捕捉率に与える雪粒子の落下姿勢・フラッター運動の効果
351. 内村龍二・新井正一・原島近夫・阿部友三郎(東理大・理): 飛砂現象に関する研究一砂粒子の終

端速度を推定する方法一

352. 菊地勝弘(北大・理)：1977年有珠山噴火について
353. 菊地勝弘・遠藤辰雄・近野好文(北大・理)・村山正隆
(北大・環境)：1977年有珠山噴火の大気電気観測
354. 宮沢順成・菊地勝弘(北大・理)：積乱雲からの降
- 雨に伴う大気電場の擾乱と雨滴電荷について
355. 遠藤辰雄・菊地勝弘(北大・理)・S.R. Shewchuk
(Saskatchewan Res. Coun. Canada)：イヌビークにおける降水電荷およびその結晶形と地上電位傾度の測定(その2)
-